

平成 28 年度

病虫害発生予察情報 第 13 号

8 月 月 報

北海道病虫害防除所 平成 28 年 9 月 日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshoh/>

Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

I. 気象概況 札幌管区气象台発表 北海道地方気象速報

－『高温・多雨・多照』台風の上陸・接近相次ぎ、記録的大雨で災害も発生－

この期間は、月の前半は高気圧の張り出しの中で晴れた日が多かったが、後半は台風や前線の影響で雨の降った日が多く、記録的な大雨となって、土砂災害や河川のはん濫などが発生した。気温は上旬と中旬は平年より高く、下旬はかなり高く、月平均気温は高かった。降水量は中旬と下旬は平年よりかなり多く、月降水量もかなり多かった。日照時間は上旬は平年より多く、月間日照時間もかなり多かった。なお、オホーツク海側と太平洋側の月降水量は1946年の統計開始以降で最も多く、中旬の北海道地方とオホーツク海側、及び下旬のオホーツク海側と太平洋側の降水量は1961年の統計開始以降で最も多かった。

上旬：1日は大気の状態が不安定となり雨の降った所が多く、大雨となった所もあった。日降水量は南富良野町金山で127.5mmなど。2～3日は気圧の尾根の中で晴れた所が多かったが、大気の状態が不安定となり大雨となった所もあった。日降水量は2日に上士幌町東4線で69.0mmなど。4日は気圧の尾根の中で概ね晴れたが、上空に寒気を伴った気圧の谷が通過し雨の降った所もあった。5日は気圧の谷が通過し日本海側やオホーツク海側で雨が降ったが、次第に晴れた。6～7日は高気圧の張り出しの中で全道的に晴れた。8日ははじめ晴れた所が多かったが、前線や上空の寒気の影響で宗谷地方や太平洋側で雨が降り、大雨となった所もあった。日降水量は枝幸町歌登で112.0mmなど。9日は前線や台風第5号の影響で広い範囲で雨が降り、大雨となった所もあったが、日本海側では次第に晴れた。日降水量は根室市弥栄町で98.0mmなど。10日は台風第5号から変わった低気圧の影響で雨の降った所もあったが、高気圧の張り出しの中で全道的に晴れた。日降水量は斜里町宇登呂で62.5mmなど。

中旬：11～13日は高気圧の張り出しの中で概ね晴れた。14日は高気圧の張り出しの中で晴れた所が多かったが、台風第6号の影響で太平洋側では雨の降った所もあった。15日は台風第6号から変わった低気圧の影響で雨の降った所が多かったが、晴れた所もあった。日降水量は標津町糸櫛別で89.0mmなど。16日は南からの暖かく湿った気流の影響で大気の状態が不安定となって全道的に雨が降り、大雨となった所もあった。日降水量はえりも町目黒で79.5mmなど。17日は前線や台風第7号の影響で全道的に雨が降り、記録的な大雨となった所もあった。日降水量は上士幌町ぬかびら源泉郷で192.5mmなど。18日は気圧の尾根の中となって晴れた所が多かったが、気圧の谷や前線の影響で雨の降った所もあった。19～20日は前線や南からの暖かく湿った気流の影響で全道的に雨が降り、記録的な大雨となった所もあった。日降水量は20日に赤平で173.5mmなど。

下旬：21日は前線と台風第11号の影響で全道的に雨が降り、記録的な大雨となった所もあった。日降水量は標津町糸櫛別で144.5mmなど。22～23日は前線や南からの暖かく湿った気流、台風第9号などの影響で全道的に雨が降り、記録的な大雨となった所もあった。日降水量は22日に中標津町上標津で78.5mm、23日に美瑛町白金で180.0mmなど。24日は高気圧の張り出しの中で全道的に晴れた。25日は前線の影響で太平洋側で雨の降った所があった他は晴れた。26日は寒冷前線が通過し全道的に雨が降った。日降水量は根室市弥栄町で82.5mmなど。27～28日は前線の影響でオホーツク海側や太平洋側東部で雨が降った他は高気圧の張り出しの中で晴れた。29日は気圧の谷の影響で雨の降った所が多かったが、日本海側などでは晴れた。日降水量は中札内村上札内で78.0mmなど。30日ははじめ日本海側で晴れたが、台風第10号の影響で広い範囲で雨が降り、記録的な大雨となった所もあった。日降水量は伊達市大滝で195.5mmなど。31日は台風第10号から変わった低気圧や湿った気流の影響で広い範囲で雨が降り、大雨となった所もあった。日降水量は上士幌町ぬかびら源泉郷で145.5mmなど。

気候表

	気温偏差℃	階級	降水比%	階級	日照比%	階級
北海道 22 地点平均	+1.9	高	209	か多	122	か多
日本海側 10 地点平均	+1.6	高	159	か多	129	か多
オホーツク海側4地点平均	+2.0	高	302	か多	125	多
太平洋側8地点平均	+2.2	か高	225	か多	111	並

(注) 階級分布図の気温・降水量・日照時間は、概ね「高(多)」、「並」、「低(少)」の3段階で表示します。各階級の幅は、平年値の作成期間(1981～2010 年の 30 年間)における各階級の出現率が 1:1:1 となるように決めてあります。なお、平年値作成期間内の上位、下位 10%の範囲に入る場合は「か高(多)」、「か低(少)」、「か→かなり」で表しています。

Ⅱ. 病害虫発生概況

A. 水稻

1. いもち病（葉いもち） 発生量 やや少

予察田の「きらら 397」における葉いもちの発生量は、岩見沢市、比布町および北斗市の全地点で平年に比べやや少なかった。

8 月 3 半旬の巡回調査では、いずれの調査地点においても発生は認められなかった。

予察田における水稻の葉いもち発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		8月2半旬		8月4半旬		8月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	8.0	12.2	8.0	15.3	10.0	17.6	5
	ななつぼし	15.0	31.8	24.0	33.1	25.0	40.1	5
比布町	きらら397	27.0	36.4	35.0	37.5	33.0	42.9	10
	ななつぼし	45.0	—	50.0	—	36.0	—	—
北斗市	きらら397	10.0	14.6	10.0	16.3	10.0	17.9	10

注1)各予察田の窒素施肥量は慣行栽培の5割増

注2)比布町の「ななつぼし」は平年値なし

一般田における水稻の葉いもち巡回調査結果

普及センター	地点数	発病株率(%)		
		8月3半旬		
		本年	昨年	
空知 本所	5	0	0	
	南東部	2	0	0
	南西部	3	0	0
	中空知	4	0	0
	北空知	7	0	0
石狩 本所	5	0	0	
	北部	4	0	0
後志 本所	4	0	0	
胆振 東胆振	4	0	0	
日高 西部	3	0	0	

普及センター	地点数	発病株率(%)		
		8月3半旬		
		本年	昨年	
渡島 本所	3	0	0	
檜山 本所	2	0	0	
	北部	2	0	0
上川 本所	8	0	0	
	富良野	2	0	0
	大雪	4	0	0
	士別	2	0	0
名寄	3	0	0	
留萌 本所	3	0	0	
	南留萌	3	0	0

いもち病（穂いもち・節いもち） 発生期 並 発生量 やや少

予察田の「きらら397」における枝梗いもちの初発期は、いずれの地点とも平年並だった。首いもちの初発期は、岩見沢市では平年よりやや遅く、比布町および北斗市では平年並だった。節いもちの初発期は、岩見沢市では平年よりやや遅く、比布町では平年よりやや早く、北斗市では8月6半旬で発生は認められなかった。

穂いもちの発生量について、岩見沢市では発病穂率、発病首率ともに平年に比べ低かった。比布町では発病穂率は平年に比べ高く、発病首率は平年並だった。北斗市では発病穂率は平年に比べ高かったが、発病首率は平年に比べ低かった。節いもちの発生量は、岩見沢市および比布町とも平年に比べ少なかった。

8月6半旬の巡回調査結果では、一般田における穂いもちの発生は認められなかった。

予察田における水稻の穂いもちと節いもちの初発期

地点	品種名	穂いもち				節いもち		平年数
		枝穂いもち		首いもち		本年	平年	
		本年	平年	本年	平年			
岩見沢市	きらら397	8月16日	8月15日	8月22日	8月17日	8月26日	8月22日	5
	ななつぼし	8月18日	8月14日	8月22日	8月17日	8月29日	8月17日	5
比布町	きらら397	8月8日	8月7日	8月10日	8月12日	8月10日	8月14日	10
	ななつぼし	8月8日	—	8月10日	—	8月10日	—	—
北斗市	きらら397	8月15日	8月14日	8月18日	8月19日	未発生	8月23日	10

注1)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

予察田における水稻の穂いもちと節いもちの発生状況(8月6半旬)

地点	品種名	穂いもち				節いもち		平年数
		発病穂率(%)		発病首率(%)		発病莖率(%)		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	6.5	17.5	0.1	12.6	0.1	9.3	5
	ななつぼし	16.1	20.9	0.7	37.2	0.7	19.3	5
比布町	きらら397	43.5	24.5	30.0	32.8	4.4	8.8	10
	ななつぼし	48.8	—	23.5	—	5.7	—	—
北斗市	きらら397	16.8	13.1	2.4	10.8	0	5.3	10

注1)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

注2)比布町の「ななつぼし」は平年値なし

一般田における水稻の穂いもち巡回調査結果

普及センター		地点数	被害利率(%)	
			8月3半旬	
			本年	昨年
空知	本所	5	0	0
	南東部	2	0	0
	南西部	3	0	0
	中空知	4	0	0
	北空知	7	0	0
石狩	本所	5	0	0
	北部	4	0	0
後志	本所	4	0	0
胆振	東胆振	4	0	0
日高	西部	3	0	0

普及センター		地点数	被害利率(%)	
			8月3半旬	
			本年	昨年
渡島	本所	3	0	0
檜山	本所	2	0	0
	北部	2	0	0
上川	本所	8	0	0
	富良野	2	0	0
	大雪	4	0	0
	士別	2	0	0
	名寄	3	0	0
	留萌	本所	3	0
	南留萌	3	0	0

2. 紋枯病 発生期 並 発生量 やや多

予察田における初発期は、岩見沢市および北斗市とも平年並だった。発生量は、岩見沢市では平年に比べ多く、北斗市では平年に比べ少なかった。

予察田における水稻の紋枯病発生状況(8月6半旬)

地点	品種名	初発期		発病株率(%)		発病茎率(%)		発病度		平年数
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	8月15日	8月17日	82.0	41.6	28.7	7.1	24.5	11.6	5
北斗市	きらら397	8月10日	8月9日	12.0	35.1	8.0	14.1	7.0	14.5	10

注1)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

3. 葉しょう褐変病 発生量 並

予察田における発生量は、岩見沢市では発病株率、発病度ともに平年並であった。

予察田における水稻の葉しょう褐変病発生状況

地点	品種名	調査時期	発病株率(%)		発病茎率(%)		発病度		平年数
			本年	平年	本年	平年	本年	平年	
岩見沢市	きらら397	8月6半旬	44.0	36.8	3.4	3.7	10.0	12.8	5
比布町	きらら397	8月4半旬	96.0	—	14.1	—	41.0	—	—

注1)各予察田の窒素施用量は慣行栽培の5割増

注2)比布町の「きらら397」は平年値なし

4. ウンカ類 発生量 並

ヒメトビウカの予察灯による誘殺数は平年と比較して長沼町ではやや少なく、比布町および北斗市では少なかった。予察田におけるすくい取り頭数は、長沼町および北斗市では平年より多く、比布町では平年より少なかった。

セジロウカの予察灯による誘殺数はいずれの地点も平年より少なかった。予察田におけるすくい取り頭数は平年と比較して長沼町では多く、比布町および北斗市では少なかった。

8月3半旬の巡回調査によると、いずれの地点も目立った発生は認められなかった。

ヒメトビウカ成虫の予察灯誘殺数および予察田における水田すくい取り頭数

月・半旬	予察灯誘殺数						水田すくい取り頭数 (20回振り×5日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	159	215.6	328	344.3	6	4.9	22.5	3.2	35.0	154.5	7.5	6.0
2半旬	41	213.4	165	534.6	1	5.2	5.0	14.1	20.0	78.8	5.0	12.8
3半旬	21	279.2	174	382.4	7	5.4	30.0	43.9	70.0	73.8	2.5	9.3
4半旬	135	209.1	29	224.4	4	29.3	50.0	34.8	130.0	134.4	15.0	11.8
5半旬	183	296.0	46	922.7	24	9.0	281.0	99.1	590.0	671.9	7.5	23.8
6半旬	820	339.7	884	2163.4	9	310	232.5	168.4	30.0	1123.1	22.5	51.5
平年数	10		10		10		4		10		10	

セジロウナカ成虫の予察灯誘殺数および予察田における水田すくい取り頭数

月・半旬	予察灯誘殺数						水田すくい取り頭数 (20 回振り×5 日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8 月 1 半旬	1	5.3	7	11.3	25	33.3	41.3	1.3	0	0.3	23.0	7.0
2 半旬	2	30.5	2	46.3	5	69.1	2.5	1.6	0	3.0	92.5	7.3
3 半旬	2	14.9	3	40.5	22	100.7	3.8	2.2	0	12.0	107.5	25.5
4 半旬	17	39.3	6	21.6	35	71.4	5.0	2.4	10	4.6	97.5	12.8
5 半旬	12	19.7	2	55.4	40	242.1	2.5	4.7	5	13.1	10.0	17.3
6 半旬	12	5.3	1	33.0	11	78.7	13.8	7.8	0	18.1	155.0	8.8
平年数	10		10		10		4		10		10	

巡回調査によるヒメトビウナ成幼虫の 20 回振り水田すくい取り頭数

普及 センター		地点数	8 月 3 半旬		普及 センター		地点数	8 月 3 半旬	
			本年	昨年				本年	昨年
空知	本所	5	0	0.0	渡島	本所	3	1.3	1.0
	南東部	2	0	0		檜山	本所	2	12.5
	南西部	3	0.7	4		北部	2	0	1
	中空知	4	0.3	1.3	上川	本所	8	11.3	0.9
	北空知	7	11.3	1.9		富良野	2	0	0
石狩	本所	5	0.2	0.2		大雪	4	5.3	2
	北部	4	0.0	0.0		士別	2	5.5	3.5
後志	本所	4	5.0	2		名寄	3	0	0
胆振	東胆振	4	0.0	0.0	留萌	本所	3	2.3	27.0
日高	西部	3	1.3	0.0		南留萌	3	0.0	0.3

5. アカヒゲホソミドリカスミカメ 発生量 並

予察灯による誘殺数は、平年と比較して北斗市で多く、長沼町ではやや少なく、比布町では少なかった。予察田におけるすくい取り頭数は、長沼町では平年より多かったが、北斗市では平年並だった。比布町では捕獲が認められなかった。

8 月 3 半旬の巡回調査によると、水田すくい取りにおいて発生モニタリングによる追加散布の基準である捕獲頭数 2 頭以上（きらら 397）となる水田が全 73 調査地点のうち、石狩地方の 1 地点に止まった。

アカヒゲホソミドリカスミカメ成虫の予察灯誘殺数および予察田における水田すくい取り頭数

月・半旬	予察灯誘殺数						水田すくい取り頭数 (20 回振り×5 日分換算値)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8 月 1 半旬	545	637.3	24	28.6	171	78.9	1.3	0.6	0	0.3	2.5	3.3
2 半旬	116	634.0	5	35.7	10	55.6	1.3	3.0	0	0.0	2.5	3.3
3 半旬	73	454.1	19	31.8	121	37.2	2.5	2.4	0	0.1	0	1.0
4 半旬	418	265.9	2	8.1	89	25.2	1.3	3.9	0	0.0	2.5	0.3
5 半旬	251	166.3	1	8.7	223	46.5	20.0	3.5	0	0.0	2.5	2.0
6 半旬	270	122.8	6	17.8	31	39.5	17.5	3.2	0	0.4	0	1.0
平年数	10		10		10		4		10		10	

巡回調査によるアカヒゲホソミドリカスミカメ成幼虫の20回振り水田すくい取り頭数

普及 センター		地点数	8月3半旬		普及 センター		地点数	8月3半旬	
			本年	昨年				本年	昨年
空知	本所	5	0	0.2	渡島	本所	3	0	0
	南東部	2	0	0		本所	2	0	0
	南西部	3	0	0		北部	2	0	0
	中空知	4	0	0	上川	本所	8	0	0
	北空知	7	0	0		富良野	2	0	0
石狩	本所	5	0.4	0.3		大雪	4	0	0
	北部	4	0.5	0		士別	2	0.5	0
後志	本所	4	0.3	0		名寄	3	0	0
胆振	東胆振	4	0	0.3	留萌	本所	3	0.3	1
日高	西部	3	0	1		南留萌	3	0.3	0

6. フタオビコヤガ 発生量 少

予察灯による誘殺数は、いずれの地点も平年より少なかった。第2～3回幼虫による予察田の被害率は、平年と比較して北斗市でやや高かったが、長沼町および比布町では低かった。

フタオビコヤガ成虫の予察灯誘殺数および予察田における被害状況

月・半旬	予察灯誘殺数						被害率(%)					
	長沼町		比布町		北斗市		長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	3	199.9	78	521.4	1	60.7	0.0	6.4	0.4	7.5	0	0
2半旬	9	358.0	74	306.6	1	33.7	0.0	6.8	1.0	8.5	1	0
3半旬	23	344.9	38	221.0	2	22.0	0.0	7.1	1.2	10.0	0.3	0
4半旬	11	139.1	4	57.0	0	5.3	0.0	7.4	2.5	12.5	0.4	0
5半旬	2	27.5	0	16.2	0	4.5	0.0	9.6	5.3	15.1	0.5	0.2
6半旬	0	15.3	0	20.5	0	3.4	0.0	8.7	11.5	16.4	0.5	0
平年数	10		10		10		4		10		10	

B. とうもろこし

1. アワノメイガ 発生量 少

北斗市におけるフェロモントラップによる誘殺数は平年と比較して少なかった。

フェロモントラップによるアワノメイガ雄成虫の誘殺数

月・半旬	北斗市	
	本年	平年
8月1半旬	1	0.2
2半旬	0	1.4
3半旬	0	1.9
4半旬	1	2.7
5半旬	3	12.2
6半旬	3	8.2

注) 平年数は10年

C. 豆類

1. べと病（大豆） 発生量 やや少

長沼町の予察ほにおける発生量は、平年に比べやや少なかった。

予察ほにおける大豆のべと病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		8月2半旬		8月4半旬		8月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	トヨムスメ	22.5	29.7	25.0	32.0	25.0	33.9	10

2. わい化病（大豆） 発生量 やや少

予察ほの大豆におけるわい化病の発病株率は、長沼町、訓子府町ともに平年に比べやや低かった。

予察ほにおける大豆のわい化病の発生状況（8月6半旬）

地点	品種名	発病株率(%)		平年数
		本年	平年	
長沼町	トヨムスメ	35.0	47.8	10
訓子府町	トヨコマチ	25.0	45.0	10

3. 菌核病（菜豆） 発生量 並

芽室町の予察ほにおける菜豆の菌核病の発生量は、平年並だった。

予察ほにおける菜豆の菌核病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		8月2半旬		8月4半旬		8月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
芽室町	大正金時	10.9	12.1	15.2	16.0	—	19.9	10

注)本年8月6半旬は調査不能

4. 灰色かび病（小豆・菜豆） 発生量 並

長沼町の予察ほ（小豆）における灰色かび病の発生量は、平年並であった。芽室町の予察ほ（菜豆）における灰色かび病の発生量は、平年並だった。

8月3半旬の巡回調査結果では、一般ほにおける小豆の灰色かび病は石狩および十勝地方で発生が認められた。

予察ほにおける小豆の灰色かび病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		8月2半旬		8月4半旬		8月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	しゅまり	0	2.5	5.0	4.5	6.0	5.4	10

予察ほにおける菜豆の灰色かび病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		8月2半旬		8月4半旬		8月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
芽室町	大正金時	16.3	17.1	19.5	20.3	—	26.0	10

注)本年8月6半旬は調査不能

一般ほにおける小豆の灰色かび病巡回調査結果

普及センター	地点数	発病株率(%) 8月3半旬	
		本年	昨年
空知 本所	1	0	0
石狩 本所	3	0.7	2.8
	北部	0	10.0
後志 本所	2	0	0
胆振 本所	3	0	0
	東胆振	0	0
檜山 本所	2	0	0
	北部	0	0

普及センター	地点数	発病株率(%) 8月3半旬	
		本年	昨年
上川 富良野	1	0	0
	大雪	0	0
	士別	0	0
	名寄	0	0
留萌 本所	1	0	0
網走 本所	2	0	0
	網走	0	0
	美幌	0	0
十勝 本所	3	1.0	0
	東部	0	0
	東北部	0	0
	北部	0	1.3
	西部	0	3.3

5. マメシンクイガ 発生期 やや遅 発生量 やや少

フェロモントラップによる成虫の誘殺数は、平年と比較して北斗市で多かったものの、長沼町および訓子府町ではやや少なく、比布町および芽室町では少なかった。

予察ほの大豆における産卵初発期は、平年と比較して芽室町で8月3半旬(平年:8月2半旬)とやや遅く、長沼町では8月3半旬(平年:8月1半旬)と遅かった。産卵数は、長沼町および芽室町で共に平年より少なかった。

フェロモントラップによるマメシンクイガ成虫の誘殺数

月・半旬	長沼町		比布		北斗		芽室		訓子府	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	16	25.0	21	58.4	6	0.5	3	11.1	0	3.0
2半旬	30	34.7	24	50.8	54	3.6	5	28.1	3	2.2
3半旬	41	39.1	36	14.4	33	9.7	10	24.1	5	8.6
4半旬	13	27.6	2	1.6	26	10.8	8	14.6	3.7	7.2
5半旬	13	20.9	0	2.4	17	12.4	6	7.1	0.3	3.7
6半旬	6	3.6	0	1.2	22	7.4	1	2.6	3	1.9
平年数	7		5		6		7		4	

予察ほの大豆におけるマメシクイガの産卵状況

月・半旬	長沼町		芽室町	
	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0	6.0	－	2.0
2半旬	0	21.6	0	12.1
3半旬	19	28.4	5	33.1
4半旬	15	30.8	12	50.1
5半旬	7	30.0	4	20.9
6半旬	3	8.5	1	4.0
平年数	8		10	

注 1) 10 株あたりの産卵数

注 2) 品種は「トコムスメ」

6. 食葉性鱗翅目幼虫（大豆・小豆） 発生量 並

予察ほ大豆の食害程度は、長沼町および訓子府町で平年並であった。小豆の食害程度は、長沼町では平年並で、訓子府町では平年より低かった。

予察ほにおける大豆および小豆の食葉性鱗翅目幼虫の食害程度

月・半旬	大豆				小豆			
	長沼町		訓子府町		長沼町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	34	46.8	24	28.9	11	22.1	4	15.3
2半旬	45	51.5	24	29.8	15	22.2	5	18.4
3半旬	45	52.1	24	30.3	22	23.9	6	19.3
4半旬	47	54.2	24	29.8	22	23.9	9	21.2
5半旬	50	55.2	26	29.3	25	23.8	10	22.3
6半旬	50	55.7	36	30.2	25	23.6	13	22.8
平年数	10		9		10		9	

D. ばれいしょ

1. 疫病 発生量 多

< 6月20日付け注意報第1号発表 >

予察ほの「とうや」における疫病の発生量は、長沼町、北斗市、芽室町および訓子府町の全地点で平年に比べ多かった。

予察ほにおけるばれいしょの疫病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		8月1半旬		8月3半旬		8月5半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	とうや	100	50.4	－	53.6	－	53.6	8
	スノーマーチ	100	42.3	－	50.1	－	58.4	7
北斗市	とうや	100	63.0	－	63.0	－	－	8
芽室町	とうや	100	87.5	－	87.5	－	87.5	10
	男爵薯	100	90.0	－	90.0	－	90.0	8
	スノーマーチ	100	85.7	－	85.7	－	85.7	10
	紅丸	100	90.0	－	90.0	－	90.0	8
訓子府町	とうや	78.5	75.4	100	79.1	－	79.1	8
	スノーマーチ	61.5	61.5	100	76.3	－	76.3	7

注) ー：茎葉の黄化、枯凋により調査不能

2. アブラムシ類 発生量 少

予察ほにおけるジャガイモヒゲナガアブラムシの発生量は、芽室町および訓子府町では平年並だった。長沼町では発生が認められなかった。ワタアブラムシは、長沼町では平年並で、訓子府町では平年より少なく、芽室町では発生が認められなかった。モモアカアブラムシは、いずれの地点も発生が認められなかった。

予察ほにおけるアブラムシ類の発生状況

月・半旬	ジャガイモヒゲナガアブラムシ						ワタアブラムシ					
	長沼町		芽室町		訓子府町		長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0	0.0	2	1.0	3	1.5	5	1.1	0	0.8	0.5	30.6
2半旬	0	0.1	0	0.6	0	0.9	0.5	0.3	0	1.3	1	29.1
3半旬	0	0.1	0	0.0	0	0.3	0	1.2	0	5.8	0.5	40.7
4半旬	0	0.1	0	0.0	0	0.2	0	0.9	0	0.4	1	43.2
平年数	10		10		10		10		10		10	

注 1) 20 株各 2 複葉、合計 40 複葉を調査。虫数は 10 株 20 複葉あたり換算虫数

注 2) 品種は「スノーマーチ」

E. てんさい

1. 褐斑病 発生量 やや少

予察ほにおける発生量は、芽室町では平年並、長沼町および訓子府町では平年に比べ少なかった。

巡回調査の結果では、8月6半旬には一般ほにおいて石狩、胆振、オホーツクおよび十勝地方の一部で発生が目立ち、発病株率が 50%を超えた場合は、全調査地点（75 地点）中 4 地点で認められた。

予察ほにおけるてんさいの褐斑病発生状況

地点	品種名	発病度						平年数
		8月2半旬		8月4半旬		8月6半旬		
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	リッカ	2.6	－	11.9	－	25.6	－	－
	あまいぶき	3.7	21.9	10.0	41.9	31.2	62.5	6
芽室町	リッカ	13.6	－	20.0	－	32.4	－	－
	あまいぶき	18.0	29.0	23.2	40.3	45.2	58.3	4
	スタウト	15.6	15.4	21.6	23.3	34.4	31.7	8
訓子府町	リッカ	3.2	22.3	21.6	36.9	29.2	57.8	7

注) —: 平年値なし

一般ほにおけるてんさいの褐斑病巡回調査結果

普及センター		地点数	発病株率(%)			
			8月3半旬		8月6半旬	
			本年	昨年	本年	昨年
空知	南東部	1	0	0	5.0	3.0
石狩	本所	3	4.7	9.3	14.7	32.7
後志	本所	3	0	0	1.7	1.0
胆振	本所	4	7.5	5.3	14.5	7.8
	東胆振	3	3.7	1.3	7.7	3.3
上川	富良野	3	0	0	0.7	29.0
	大雪	3	0.7	0.3	1.7	2.0
	士別	2	2	1.5	2.3	30.0
	名寄	1	0	0	0.0	1.0
網走	本所	10	0.2	7.2	24.3	35.9
	清里	3	0.3	0.7	3.3	1.0
	網走	2	0	0	0.5	0
	美幌	5	1.2	0.7	5.4	3.5
	遠軽	9	0.3	2.6	29.8	13.4
十勝	本所	4	4.0	6.0	33.0	39.3
	東部	6	3.3	10.5	5.7	17.8
	東北部	4	0.3	22.8	62.0	32.8
	北部	3	0	0	11.3	10.7
	西部	3	1.3	15.3	9.3	20.3
	南部	3	2.3	0	3.7	2.8

2. ヨトウガ（第2回） 発生期 やや遅 発生量 やや少

予察灯による第2回成虫の初発期は、長沼町で8月8日（平年：8月8日）と平年並だったものの、比布町では8月15日（平年：8月7日）と平年より遅かった。北斗市（平年：8月8日）、訓子府町（平年：8月11日）では誘殺を認めていない。誘殺数は、比布町では平年並で、長沼町では平年より少なかった。

予察ほにおける産卵初発期は、長沼町では8月3半旬（平年：8月1半旬）と平年より遅く、芽室町では8月2半旬（平年：8月3半旬）と平年よりやや早かった。訓子府町では産卵が確認されなかった。食害程度は長沼町では平年並だったが、芽室町および訓子府町では平年よりやや低かった。

8月6半旬の巡回調査において、被害株率が50%以上となったほ場は全75地点中1地点に止まった。

ヨトウガ成虫の予察灯誘殺数

月・半旬	長沼町		比布町		北斗市		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0	0.4	0	0.3	0	0.3	0	0	0	0.3
2半旬	1	2.0	0	0.3	0	0.2	0	0.3	0	1.1
3半旬	0	4.0	2	0.2	0	0.1	0	0.7	0	1.5
4半旬	2	3.2	0	0.4	0	0.5	－	1.9	0	1.0
5半旬	1	1.7	0	0.2	0	0.1	－	2.8	0	1.4
6半旬	0	1.9	0	0.1	0	0.1	－	2.0	0	1.4
平年数	10		9		10		10		10	

注) 芽室町(8月4～6半旬)は欠測

予察ほにおけるヨトウガの卵塊数および食害程度

月・半旬	卵塊数(50 株あたり)						食害程度					
	長沼町		芽室町		訓子府町		長沼町		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8 月 1 半旬	0	0.6	0	0.4	0	0.0	67.0	63.2	28	43.0	16	36.8
2 半旬	0	2.5	1	0.8	0	0.3	61.0	61.2	30	43.3	20	38.4
3 半旬	3	4.3	1	1.6	0	0.4	60.0	60.4	29	42.5	23	36.4
4 半旬	0	4.9	1	2.1	0	0.6	56	55.5	29	42.1	26	36.9
5 半旬	3	3.8	1	1.9	0	0.3	52.5	53.9	34	41.4	28	38.8
6 半旬	0	2.1	0	1.2	0	0.8	53.5	56.2	37	40.7	36	39.5
平年数	10		10		10		10		10		10	

巡回調査によるてんさいのヨトウガ被害株率

普及 センター	地点 数	8 月 6 半旬		普及 センター	地点 数	8 月 6 半旬	
		本年	昨年			本年	昨年
空知 南東部	1	10.0%	2.0%	網走 本所	10	3.2%	4.5%
石狩 本所	3	10.3%	7.3%	清里	3	1.7%	2.0%
後志 本所	3	4.7%	0.0%	網走	2	4.0%	2.5%
胆振 本所	4	4.3%	3.3%	美幌	6	0.7%	21.7%
東胆振	3	7.7%	0.3%	遠軽	9	3.6%	34.5%
上川 富良野	3	17.7%	10.0%	十勝 本所	4	6.3%	16.3%
大雪	3	21.7%	13.3%	東部	6	2.3%	2.0%
士別	2	0.5%	3%	東北部	4	0%	0%
名寄	1	2.0%	2.0%	北部	3	0%	0%
				西部	3	2.7%	4.7%
				南部	3	0.2%	7.3%

被害株率:50 株調査

F. あぶらな科野菜

1. 軟腐病（だいこん） 発生量 やや多

長沼町の予察ほにおけるだいこんの軟腐病の発生量は、平年に比べやや多かった。

予察ほにおけるだいこんの軟腐病発生状況

地点	作物名	品種名	作型	発病株率(%)						平年数
				8月2半旬		8月4半旬		8月6半旬		
				本年	平年	本年	平年	本年	平年	
長沼町	だいこん	耐病総太り	初夏播き	6.7	3.8	10.5	9.6	17.1	11.1	10
		耐病総太り	夏播き	-	-	0	0	1.0	1.9	10

注) - :調査時期外

2. モンシロチョウ 発生量 多

予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、平年と比較して長沼町ではやや多く、北斗市では多かった。一般ほでは、8月3半旬の巡回調査において、本種が優占種である地点はなかった。

予察ほのキャベツにおけるモンシロチョウの発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	1	1.9	52	25.3
2半旬	41	9.7	163	9.9
3半旬	57	16.4	164	18.0
4半旬	33	28.2	217	8.0
5半旬	5	27.8	35	10.3
6半旬	11	19.9	8	5.7
平年数	10		10	

注) 10株あたりの寄生虫数

3. コナガ 発生量 やや多

フェロモントラップによる成虫誘殺数は、平年と比較して長沼町および芽室町では少なかった。一方、北斗市および訓子府町では多かった。

予察ほのキャベツにおける寄生幼虫数は、平年と比較して長沼町でやや多く、北斗市では多かった。8月3半旬の巡回調査において、本種が優占種である地点が多かった。

フェロモントラップによるコナガ成虫の誘殺数

月・半旬	長沼町		北斗市		芽室町		訓子府町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	44	95.5	65	45.8	0	3.0	9	1.7
2半旬	31	102.7	49	23.3	1	2.5	3	1.6
3半旬	20	81.7	30	32.9	0	1.6	3	0.8
4半旬	3	63.4	140	12.8	0	2.0	1	0.9
5半旬	11	29.6	60	13.9	0	1.3	3	0.6
6半旬	14	33.0	16	11.1	0	1.0	2	1.1
平年数	10		10		10		10	

注) 設置場所はあぶらな科野菜ほ場近辺、芽室町はあぶらな科野菜以外のほ場近辺、訓子府町は雑草地

予察ほのキャベツにおけるコナガ幼虫の発生状況

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0	3.9	58	26.0
2半旬	13	5.2	84	10.5
3半旬	43	36.3	90	14.7
4半旬	50	30.7	13	6.4
5半旬	4	17.9	0	5.0
6半旬	8	8.8	7	16.1
平年数	10		10	

注) 10株あたりの寄生虫数

4. ヨトウガ (第2回) 発生量 やや少

予察ほのキャベツにおける卵塊数は長沼町で平年よりやや少なかった。北斗市では産卵が認められなかった。予察灯による第2回成虫の誘殺頭数は長沼町では平年より少なく、北斗市では誘殺が認められなかった(てんさいの項参照)。

8月3半旬の巡回調査において、本種が優占する地点はなかった。

G. りんご

1. 黒星病 発生量 多

予察園における発生量は、長沼町（無防除）の「昂林」および「つがる」ともに平年と比べ多かった。余市町BおよびC（慣行防除あり）でも発生が認められた。

巡回調査の報告によると、一般園においても発生が認められた。

予察園におけるりんごの黒星病発生状況(8月6半旬)

地点	品種名	病葉率(%)		発病度		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼町	昂林	57.5	28.1	41.5	17.3	7
	つがる	59.2	32.2	40.2	13.8	7
余市町B	つがる	3	0.03	—	—	10
余市町C	王林	1	—	—	—	—

注1) 長沼町は8月6半旬、余市町B、C(慣行防除あり)は8月第5週のデータ

注2) —: 調査対象外

一般園におけるりんごの黒星病巡回調査結果

普及センター		地点数	病葉率(%)	
			8月3半旬	
			本年	昨年
後志	北後志	4	0.25	0
胆振	本所	1	0	0
渡島	本所	1	0	0
留萌	南留萌	1	0	0

2. 斑点落葉病 発生量 やや少

長沼町の予察園（無防除）の「王林」における発生量は、平年に比べやや少なかった。余市町の予察園（慣行防除あり）では発生が認められなかった。

巡回調査の報告によると、一般園における発生は、デリシャス系等の感受性品種を調査対象にしている渡島および留萌地方において発生が認められた。

予察園におけるりんごの斑点落葉病発生状況

地点	品種名	病葉率(%)		平均病斑数(個/葉)		平年数
		本年	平年	本年	平年	
長沼町	王林(新梢)	2.3	4.1	0.1	0.1	6
	王林(徒長枝)	0.7	3.8	0.1	0.1	6
余市町C	王林(徒長枝)	0	—	—	—	—

注1) 長沼町は8月6半旬、余市町B(慣行防除あり)は8月5週目のデータ

注2) —: 調査項目外

一般園におけるりんごの斑点落葉病巡回調査結果

普及センター		地点数	病葉率(%)	
			8月3半旬	
			本年	昨年
後志	北後志	4	0	0
胆振	本所	1	0	0
渡島	本所	1	9.3	14.0
留萌	南留萌	1	2.8	27.0

3. ハマキムシ類 発生期 並 発生量 やや少

フェロモントラップによるリンゴコカクモンハマキ第2回成虫の初発期は長沼町で8月10日(平年:8月12日)と平年並で、余市町Aでは8月12日(平年:8月16日)と平年よりやや早かった。リンゴモンハマキ第2回成虫の初発期は長沼町で8月10日(平年:8月9日)と平年並だった。

リンゴコカクモンハマキの誘殺数は、余市町Aでは平年より多かったが、長沼町では平年より少なく、余市町Bでは平年よりやや少なかった。リンゴモンハマキの誘殺数は、長沼町で平年より少なく、余市町AおよびBでは誘殺が認められなかった。幼虫による被害新梢率は、長沼町で7.0%(平年:1.9%)と平年より高かったが、余市町AおよびBでは被害が認められなかった。

一般園におけるフェロモントラップによるリンゴコカクモンハマキの誘殺数は、いずれの地点も平年より少なかった。リンゴモンハマキの誘殺数は、平年と比較して七飯町ではやや少なく、その他の地点では少なかった。

予察園におけるフェロモントラップによるハマキムシ類の誘殺数

月・半旬	リンゴコカクモンハマキ						リンゴモンハマキ					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0	0.3	2	0.2	1	1.7	0	4.5	0	0.5	0	0.2
2半旬	3	1.3	10	0.5	7	3.0	3	5.5	0	0.4	0	0.4
3半旬	2	3.4	8.8	0.9	3	3.3	8	17.0	0	0.0	0	0.3
4半旬	0	2.1	5.0	1.0	1	3.9	22	30.0	0	0.1	0	0.2
5半旬	0	2.3	3	0.7	1	4.4	32	47.5	0	0.1	0	0.3
6半旬	0	1.2	3.5	1.7	1	3.4	36	41.2	0	0.4	0	0.4
平年数	10		10		10		10		10		10	

注)余市町A、Bの予察園は慣行防除あり

一般園におけるリンゴコカクモンハマキのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		伊達市		壮瞥町		七飯町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0	0.2	0.8	0.1	0	0.3	0	0.0	0	0.4
2半旬	0.5	1.1	1.2	0.5	0	0.7	0	0.2	0	1.3
3半旬	0	1.7	0	1.5	0	1.0	0	0.6	0.6	1.0
4半旬	0	2.5	0	2.9	0	1.6	0	0.4	0.9	0.8
5半旬	0	1.6	0.7	3.5	0	2.4	0	0.1	0.5	1.2
6半旬	0	1.7	1.3	2.2	0	3.5	0.7	0.7	0	1.8
平年数	10		10		10		10		7	

注)調査地点数は、岩見沢市2地点、札幌市・伊達市・壮瞥町・七飯町各1地点

一般園におけるリンゴモンハマキのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		伊達市		壮瞥町		七飯町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	0	1.0	0	4.6	3.8	1.5	0.5	0.1	2.0	0.3
2半旬	0.5	0.5	0.3	1.8	1.5	1.3	0.5	1.3	0.5	0.9
3半旬	0	1.0	0.6	0.7	0	2.7	0	1.6	1.7	1.9
4半旬	2.5	2.4	3.0	1.3	2.5	9.2	0.6	1.0	1.8	3.7
5半旬	3.0	4.1	3.5	3.7	7.2	19.5	0.7	1.3	4.3	6.2
6半旬	3.0	7.5	6.0	14.5	12.8	32.0	1.0	1.9	8.7	10.4
平年数	10		9		10		10		7	

注)調査地点数は、岩見沢市2地点、札幌市・伊達市・壮瞥町・七飯町各1地点

4. モモシンクイガ 発生量 並

予察園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、平年と比較して余市町Bではやや多かったが、長沼町ではやや少なく、余市町Aでは少なかった。長沼町の予察園における産卵数は平年より少なかった。

一般園におけるフェロモントラップ誘殺数は、岩見沢市および七飯町では上旬を主体に平年より多かった。札幌市および旭川市は平年並で、壮瞥町および伊達市では平年よりやや少なかった。

予察園におけるモモシンクイガのフェロモントラップによる誘殺数、産卵数および被害果率

月・半旬	フェロモントラップ誘殺数						産卵数 (/100 果)		被害果率(%)	
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		長沼町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8 月 1 半旬	127	148.4	11.2	80.1	34.7	54.8	88	142.3	100	83.3
2 半旬	43	52.1	48.0	72.3	31.0	44.0	28	91.0	100	91.7
3 半旬	21	30.9	41.8	67.5	41.0	35.2	12	43.4	100	94.2
4 半旬	4	20.8	15.7	46.6	67.7	29.4	6	52.9	100	94.3
5 半旬	1	21.2	3.5	27.1	43.4	21.3	4	54.3	100	95.6
6 半旬	5	22.2	11.5	36.8	42.0	29.6	19	70.4	100	96.8
平年数	10		10		10		10		10	

注 1) 余市町 A、B の予察園は慣行防除あり

注 2) -: 未調査

一般園におけるモモシンクイガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		伊達市		壮瞥町		七飯町		旭川市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8 月 1 半旬	25.7	7.9	16.7	7.1	20.7	27.6	7.6	3.0	145.7	65.0	68.3	56.7
2 半旬	14.5	7.0	3.9	5.1	21.0	19.3	4.1	4.1	99.0	84.8	46.0	37.9
3 半旬	7.5	3.8	0.6	4.6	10.0	24.5	2.9	5.6	62.2	79.1	34.0	32.7
4 半旬	1.5	3.4	0.7	3.5	10.6	27.1	1.9	6.3	60.8	42.2	8.0	19.6
5 半旬	1.0	1.7	2.4	4.5	27.0	31.8	3.5	6.7	46.7	24.8	18.0	25.6
6 半旬	1.0	0.8	8.0	4.5	41.6	36.6	5.8	8.2	25.3	23.2	17.8	24.8
平年数	10		10		10		10		7		8	

注) 調査地点数は、岩見沢市 2 地点、札幌市・伊達市・壮瞥町・七飯町・旭川市各 1 地点

5. ハダニ類 発生量 少

予察園におけるハダニ類の発生量は、長沼町でリンゴハダニ、ナミハダニともに平年より少なかった。余市町AおよびBでは両種ともに発生が認められなかった。

予察園におけるハダニ類成虫の発生状況

月・半旬	リンゴハダニ						ナミハダニ					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8 月 1 半旬	2	7.0	0	3.8	0	0.8	3	0.6	0	7.5	0	0.3
2 半旬	2	4.3	-	2.8	-	3.4	0	6.1	-	6.6	-	4.6
3 半旬	1	2.8	0	1.0	0	1.0	0	1.7	0	1.3	0	12.5
4 半旬	0	1.7	0	1.0	0	13.0	0	1.0	0	5.0	0	36.1
5 半旬	0	2.6	0	1.0	0	8.5	0	2.9	0	4.0	0	7.3
6 半旬	2	2.4	0	0.2	0	1.6	0	1.6	0	2.3	0	7.6
平年数	10		10		10		10		10		10	

注 1) 30 葉あたりの寄生虫数

注 2) 余市町 A、B の予察園は慣行防除あり

注 3) -: 未調査

6. キンモンホソガ 発生量 少

予察園におけるフェロモントラップによる誘殺数は、長沼町、余市町A、Bいずれの地点においても平年より少なかった。予察園における被害葉率は、平年と比較して長沼町では低く、余市町Bではやや低かった。余市町Aでは被害が認められなかった。

一般園におけるフェロモントラップ誘殺数も、全ての地点で平年より少なかった。

予察園におけるキンモンホソガの被害葉率およびフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	フェロモントラップ誘殺数						被害葉率(%)					
	長沼町		余市町A		余市町B		長沼町		余市町A		余市町B	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	12	27.5	49.4	358.8	117.2	281.1	3	8.0	0	0.5	0	0.2
2半旬	6	42.5	85.0	658.7	36.0	609.1	4	9.2	-	1.1	-	0.3
3半旬	0	60.0	91.0	656.6	37.8	891	6	16.0	0	0.6	1	0.0
4半旬	6	52.9	66.2	746.6	57.9	611.1	9	20.0	0	2.0	0	0.7
5半旬	23	87.4	54.0	350.1	61.3	380.6	10	25.5	0	0.8	0	0.0
6半旬	5	129.9	82.0	404.0	24.5	124.7	7	32.9	0	1.8	0	0.8
平年数	10		10		10		10		10		10	

注1)余市町A、Bの予察園は慣行防除あり

注2)-:未調査

一般園におけるキンモンホソガのフェロモントラップによる誘殺数

月・半旬	岩見沢市		札幌市		伊達市		壮瞥町		七飯町		増毛町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月1半旬	3.6	24.0	0.8	2.5	36.9	53.3	200.4	279.2	14.3	256.2	1.3	56.6
2半旬	1.0	31.2	0.9	2.3	43.7	65.4	345.3	357.0	38.0	486.3	7.6	101.7
3半旬	0.5	35.7	0.6	2.5	19.3	74.2	405.7	597.5	26.0	309.9	20.7	138.7
4半旬	2.5	15.5	1.8	2.3	12.5	64.8	576.9	877.4	38.0	201.8	90.5	216.9
5半旬	0.5	6.2	1.3	3.1	14.8	41.9	394.5	802.2	24.0	312.3	108.0	263.7
6半旬	0.5	13.5	2.7	8.4	16.1	35.5	177.8	629.5	4.0	293.0	50.1	253.7
平年数	10		10		10		10		7		10	

注)調査地点数は、岩見沢市・増毛町各2地点、札幌市・伊達市・壮瞥町・七飯町各1地点

農薬の適切な保管管理と空容器等の適正な処分に努めましょう!!

■ 農薬の保管管理等に当たって

農作業も終盤となり農薬を使用する機会も少なくなりますが、使い残した農薬は適切に保管管理するとともに、空容器等は適正に処分するようにしてください。

- 1 農薬は乾燥した冷暗所に保管箱又は保管庫を設置し、施錠して保管してください。
- 2 農薬の誤用を防止するため、種類別に分類整理して保管してください。特に除草剤は、誤って使用すると薬害等の被害を招く恐れがあるので、他の農薬と明確に区分してください。
- 3 毒物又は劇物に該当する農薬は、毒物及び劇物取締法により容器や包装、保管場所への表示等が定められていますので、これを遵守してください。
また、消防法に基づく危険物に該当する農薬は、貯蔵及び取扱いの基準が定められているので、これを守ってください。
- 4 誤飲等を防ぐため、農薬は他の容器への移し替えや小分け、特に食品容器への移し替えは行わないようにしてください。
- 5 使用済みの農薬の空容器は、他の用途には絶対に使わないでください。
また、農薬の空容器及び残農薬の処分に当たっては、関係法令に基づき適正な処分に努めてください。
なお、農薬の空容器の処分に当たっては、容器内に農薬が残らないよう十分に除去してください。

農薬に関してのお問い合わせは

道庁農政部生産振興局技術普及課（TEL:011-231-4111（内線）27-838）

北海道病虫害防除所（TEL0123-89-2080）

または最寄りの総合振興局・振興局農務課にご照会ください。

登録情報や農薬取締法等については

農林水産省ホームページの「農薬コーナー」(<http://www.maff.go.jp/nouyaku/>)をご覧ください。